

ライブでしか味わえない「ドキドキ」



Jolly forest Jazz orchestra
(ジョリーフォレストジャズオーケストラ)

廣田 静子 さん

「みんなで演奏する
ジャズって、楽しい！」
と笑顔で話す廣田さん。

みの〜れと共に生活するスタイル

Minole Life
のすすめ No.76

「コスモスの花が秋風にゆれて、私たちの目を楽しませてくれる季節になりました。みの〜れでも、ドンダリ拾いを楽しむおやこの姿をよく見かけます。コマやマラカス作りを楽しむ人もいます。自然がくれた宝物で作るおもちゃ、素敵ですね。今回は楽団四季ジョリーフォレストジャズオーケストラ（通称ジョリーフォレ）テナーサクソ担当で、小美玉市竹原地区にお住いの廣田静子さん取材します。

みの〜れは、 楽しい学校

廣田さんは東京から小美玉市に越してきて3年。田舎暮らしを楽しんでいるひとりだ。ジョリーフォレには、昨年入団した。子どもの頃、ピアノは習っていたが、テナーサクソや管楽器は触ったこともなかった。暮らしが落ち着いたこともあり、新しいことに挑戦してみようと、テナーサクソのインターネット講座を受けてみたのだと言っ。何となくやってはもの、一人でやっているだけでは物足りなさを感じたそう。そんなとき、みの〜れで「楽器フレイヤー育成講座」があることを知り、参加したことがみの〜れとジョリーフォレに関わることになった。「初めは、ジョリーフォレに入るかどうか迷っていました。ジョリーフォレは先生に教わるのではなく、各自が自主的に練習するスタイルなんです。当時は楽器初心者だし、ジャズのリズムも自信のな

い自分がついていけるのかという不安もあった」という。しかしその不安を乗り越え、ジョリーフォレ入団を果した廣田さん。「一人でピアノを弾くことはあったけど、たくさんのメンバーと一緒に演奏したことはなかった。だから、各パートの音が合わさって一つの曲になる楽しさを初めて知りました。もう、楽しくて仕方がないですね！」と笑顔を見せてくれた。

昨年から入団した廣田さんだが、すでに何度もステージに立っている。初舞台はジョリーフォレ自主公演である3rdライブ。楽しさと緊張、そして難しさ、色々な経験ができたという。「相当ドキドキするんですけど、緊張からか、呼吸のコントロールが出来なくて、練習のときより音が出なかったり、小さい音を出すときに大きな音が出てしまったり。そんな緊張感も含めて、ライブは楽しいです」と語った。

大学時代はコーラスでソプラノパートを歌っていた廣田さん。「コーラスと同じように、楽器で歌っているように、演奏しているんです」と

楽しそうに話してくれた。

ジョリーフォレでのたくさんの思い出の中で一番うれしかったのは、3rdライブの譜面をもちつたときだそう。それから時が経つにつれて、少しずつ譜面の数も多くなり、演奏できる曲も増えてきているそう。最初は指が思うように動かず、大変なこともあったが、ジョリーフォレメンバーの励ましがあつたからこそ、やってこれたのだと語った。

みの〜れについては、「東京から引っ越してきてから、色々なイベントを行っている場所があることを知り、驚きました。知り合いがほとんどいなかったので、みの〜れが交流の輪を広げるきっかけになってくれました。私にとっては交流の場・楽しい学校って感じですね」と笑顔で話してくれた。

「ジャズのおしゃれさ・楽しさを表現できるように、これからも楽しくがんばっていききたいですね！」と語る廣田さんは、輝いて見えた。

(藤田佐知子)